

ガーナでそろばんプロジェクト 79 号(2018 年 12 月 10 日)

★★ 子どもが増えるのはうれしいことなのだけど素直に喜べない私 ★★

このまま増え続けたらどうしよう・・・九月の最後の日に7人の子どもが来た時にそう感じた不安は、十月の最初の教室の日にさらに大きくなってしまいました。14人の子どもが来たのです。かつて、デイビット、クレナム、ブラザー、ギルバード、プリンシラがいた時代も10人越えのそろばん教室でしたが、それぞれの進捗も違い、指導するのにも心にゆとりがありませんでした。ところが、今回はダバス以外は初心者。どんなに授業で大きなそろばんを使って珠の読み方はやっても全くの初心者と言ってもおかしくありません。そんな子どもが10人以上も来ると、うれしさより不安の方が大きくなってしまいます。この日は、プリント練習に入っている子ども以外は、指導用そろばんで珠を読む、置くの練習を1時間ほどして帰りました。悩んだ末の策でした。またダバスは、現在8級の練習プリントをしているので、まるつけと分らないところの指導をすればいいのですが、中三になったダバスには通える機関が限られてしまいます。まだ「マイそろばん」を手にしていないダバスにどうしても「マイそろばん」を手にしてほしいのです。一番の古株になってしまったダバスに練習できる時間と場所を守りたい。子どもが続々と教室にやってくる中、ダバスが来るのを何よりも待ち望んでしまっています。

十月のそろばん教室は、このあと2回開室しました。十月最後の開室の時に、ダバスのクラスメイトのプロミスがやってきました。ふだんの授業は口数が少なく工作なども静かに黙々と取りくむ男の子です。「トシコ」と何をするにもノリの良いお調子者の男子もいればプロミスはほとんどしゃべらない男子です。そんなプロミスが、ブロックの壁越しに覗き込むようにこちらを見ていたのです。初めて教室に通う子どもたちの態度も様々。「トシコ、グットアフタヌーン」とあいさつして教室に入ってくる子どももいれば、

あいさつなしで、スーツと入って来て空いている席に着席する子どももいれば、プロミスのように、そうと教室の様子を見て、こちらが声をかけないと教室に入らない子どもと様々です。教室に入ってきたプロミスはダバスに近くに座り、ダバスがそろばんを弾く手を食い入るように見ていました。プロミスも教室に通える時間はダバス同様に少ないですが、プロミスのダバスの指先を見つめる目に真剣な想いを感じました。これに応えたいと強く思いました。

報告 TOSHIKO

協賛

トモエそろばん様

